

V 地区別方針

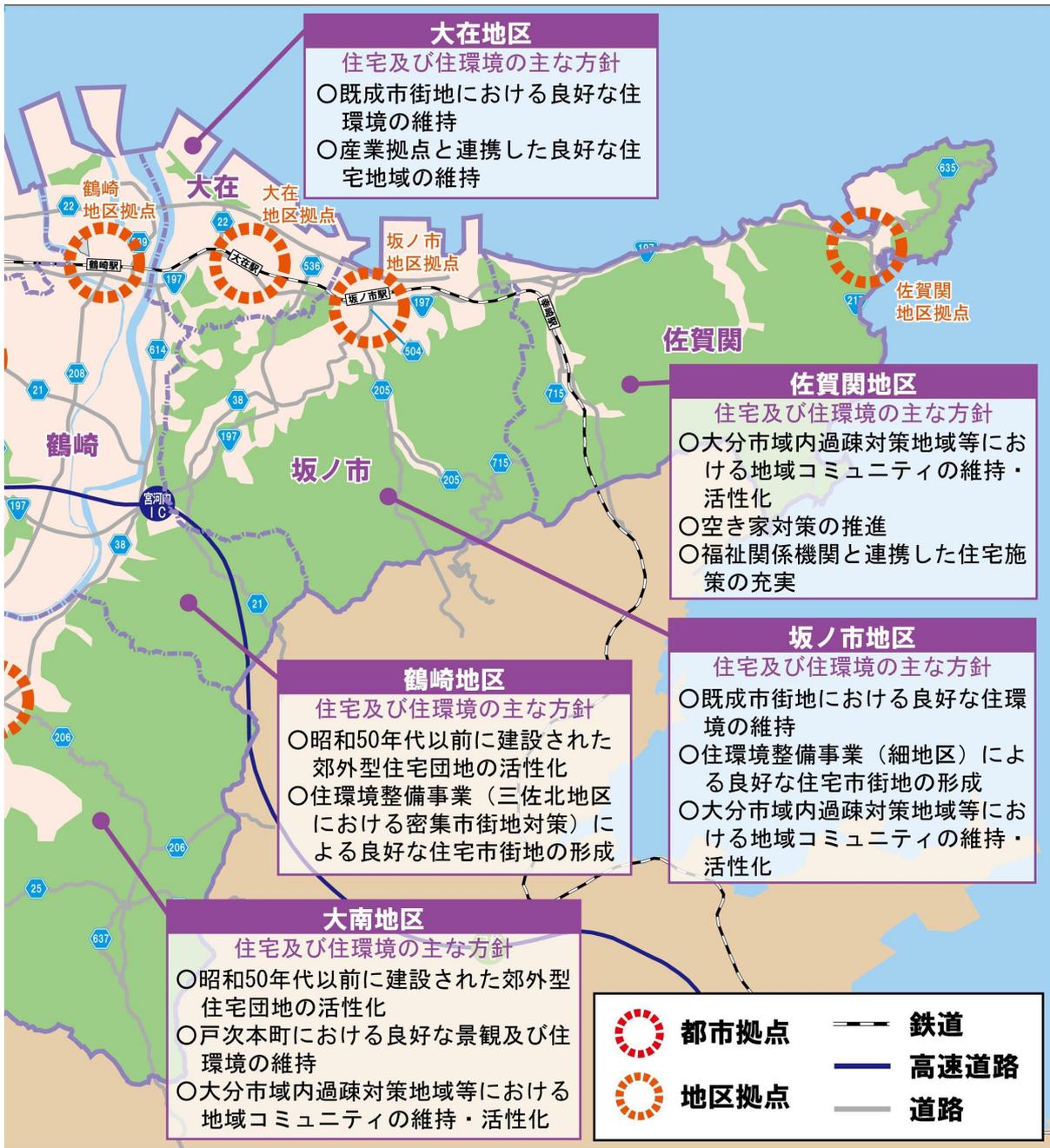


1. 地区別方針の全体像

地区別方針の全体像を下図に、各地区の現状等を次頁以降に示します。

■地区別方針の全体像





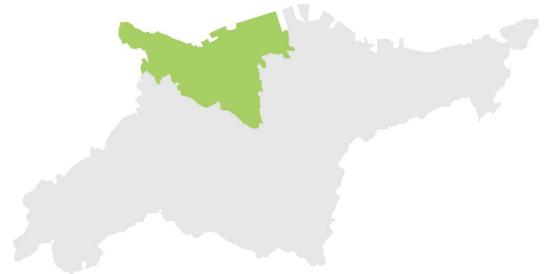


2. 地区別方針

(1) 大分地区

【現状】

- 大分駅周辺総合整備事業により大分駅周辺が大きく変貌し、特に JR 大分駅南地区では土地区画整理事業により利便性の高い都市型の良好な住環境が形成されました。
- 中心市街地の再構築・居住環境づくり、大分市域内過疎対策地域等における地域コミュニティの維持等が求められています。
- 一部の地域（浜町・芦崎・新川地区や滝尾地区）で住環境整備事業が進行中です。
- 空家等の数が最も多い地区で、そのまま入居可能な空家等が半数程度、軽度な不良状態を含めると9割以上を占めています。
- 住宅に住む一般世帯を住宅の建て方別に見ると、「共同住宅」が6割強、次いで「一戸建」が4割弱となっています。



■地区と大分市の人口の推移比較

		単位	大分地区			大分市		
			H23	H28	増減	H23	H28	増減
人口	合計※	人	204,023	206,080	+1.0%	476,203	479,408	+0.7%
	15歳未満	%	14%	14%	+0%	15%	14%	-1%
	15～64歳	%	66%	63%	-3%	65%	61%	-4%
	65歳以上	%	19%	23%	+4%	20%	25%	+5%
平均年齢		才	42.7	44.2	1.5	43.1	44.7	1.6
世帯数※		世帯	94,352	99,240	+5.2%	206,047	217,182	+5.4%
世帯当り人員		人/世帯	2.2	2.1	-0.1	2.3	2.2	-0.1

※人口合計と世帯数の増減では、増減率を示した。出典：大分市『住民基本台帳』（各年9月末）

■地区と大分市の空家等の状況比較

		大分地区		大分市		
		戸数(戸)	割合	戸数(戸)	割合	
空家等	合計	1,213	100.0%	3,138	100.0%	
	内訳	そのまま入居可能	604	49.8%	1,332	42.4%
		軽度な不良状態	567	46.7%	1,561	49.8%
		重度な不良状態	36	3.0%	230	7.3%
		修復不可能	6	0.5%	15	0.5%
特定空家等の可能性有り		131	10.8%	451	14.4%	

出典：大分市『大分市空家等実態調査』（H27年10月～H28年3月）

■地区と大分市の住宅の建て方別一般世帯数の比較

		住宅の建て方別一般世帯数				
		総数※	一戸建	長屋建	共同住宅	その他
実数 (世帯)	大分市	196,663	102,213	1,900	92,278	272
	大分地区	90,642	33,218	815	56,430	179
割合	大分市	100%	52%	1%	47%	0%
	大分地区	100%	37%	1%	62%	0%

※住宅の建て方「不詳」を含む

出典：総務省統計局『平成27年国勢調査』

※一般世帯：住居と生計を共にしている人の集まり、または単身者。ただし、寮や病院等施設等の入所者を除く。詳細は国勢調査において定義されている。

【住宅及び住環境の主な方針】

- 街なか居住の促進
- 都市型の高齢者対応住宅施策（住み替え支援）の推進
- 住環境整備事業（浜町・芦崎・新川地区や滝尾地区）による良好な住宅市街地の形成
- 大分市域内過疎対策地域等における地域コミュニティの維持・活性化
- 空き家の活用推進



(2) 鶴崎地区

【現状】

- 地区北部は商業・業務地区、地区中部は住宅地、地区南部は豊かな自然が残っており、工場が海岸部や内陸部に点在しています。
- 密集市街地、狭隘道路や生活道路の不足等の課題を抱える地区があります。
- 一部の地域（三佐北地区）で住環境整備事業が進行中です。
- 昭和50年代以前に建設された郊外型住宅団地の急激な少子高齢化への対応が課題となっています。
- 住宅に住む一般世帯を住宅の建て方別に見ると、「一戸建」が6割強、次いで「共同住宅」が3割強となっています。



■地区と大分市の人口の推移比較

		単位	鶴崎地区			大分市		
			H23	H28	増減	H23	H28	増減
人口	合計※	人	74,236	77,320	+4.2%	476,203	479,408	+0.7%
	15歳未満	%	16%	16%	+0%	15%	14%	-1%
	15～64歳	%	67%	62%	-5%	65%	61%	-4%
	65歳以上	%	18%	22%	+4%	20%	25%	+5%
平均年齢		才	41.7	42.8	1.1	43.1	44.7	1.6
世帯数※		世帯	29,394	32,073	+9.1%	206,047	217,182	+5.4%
世帯当り人員		人/世帯	2.5	2.4	-0.1	2.3	2.2	-0.1

※人口合計と世帯数の増減では、増減率を示した。出典：大分市『住民基本台帳』（各年9月末）

■地区と大分市の空家等の状況比較

		鶴崎地区		大分市		
		戸数(戸)	割合	戸数(戸)	割合	
空家等	合計	393	100.0%	3,138	100.0%	
	内訳	そのまま入居可能	204	51.9%	1,332	42.4%
		軽度な不良状態	173	44.0%	1,561	49.8%
		重度な不良状態	15	3.8%	230	7.3%
		修復不可能	1	0.3%	15	0.5%
特定空家等の可能性有り		57	14.5%	451	14.4%	

出典：大分市『大分市空家等実態調査』（H27年10月～H28年3月）

■地区と大分市の住宅の建て方別一般世帯数の比較

		住宅の建て方別一般世帯数				
		総数※	一戸建	長屋建	共同住宅	その他
実数(世帯)	大分市	196,663	102,213	1,900	92,278	272
	鶴崎地区	29,078	18,777	351	9,915	35
割合	大分市	100%	52%	1%	47%	0%
	鶴崎地区	100%	65%	1%	34%	0%

※住宅の建て方「不詳」を含む

出典：総務省統計局『平成27年国勢調査』

※一般世帯：住居と生計を共にしている人の集まり、または単身者。ただし、寮や病院等施設等の入所者を除く。詳細は国勢調査において定義されている。

【住宅及び住環境の主な方針】

- 昭和50年代以前に建設された郊外型住宅団地の活性化
- 住環境整備事業（三佐北地区における密集市街地対策）による良好な住宅市街地の形成



(3) 大南地区

【現状】

- 地区の大部分を山地、丘陵地が占めています。
- 昭和 50 年代以前に建設された郊外型住宅団地の急激な少子高齢化への対応が課題となっています。
- 戸次本町における歴史的な街なみを活かした街なみ環境整備事業が完了し、趣のある良好な住環境が形成されており、地区計画に基づく古い在町の景観の維持に努めています。今後も、これらの良好な住環境を維持していく必要があります。
- 大分市域内過疎対策地域等における地域コミュニティの維持等が求められています。
- 住宅に住む一般世帯を住宅の建て方別に見ると、「一戸建」が 9 割強、次いで「共同住宅」が 1 割弱となっています。



■地区と大分市の人口の推移比較

		単位	大南地区			大分市		
			H23	H28	増減	H23	H28	増減
人口	合計※	人	28,316	27,597	-2.5%	476,203	479,408	+0.7%
	15歳未満	%	14%	13%	-1%	15%	14%	-1%
	15～64歳	%	64%	61%	-3%	65%	61%	-4%
	65歳以上	%	21%	27%	+6%	20%	25%	+5%
平均年齢		才	44.2	46.5	2.3	43.1	44.7	1.6
世帯数※		世帯	10,622	11,075	+4.3%	206,047	217,182	+5.4%
世帯当り人員		人/世帯	2.7	2.5	-0.2	2.3	2.2	-0.1

※人口合計と世帯数の増減では、増減率を示した。出典：大分市『住民基本台帳』（各年9月末）

■地区と大分市の空家等の状況比較

		大南地区		大分市		
		戸数(戸)	割合	戸数(戸)	割合	
空家等	合計	283	100.0%	3,138	100.0%	
	内訳	そのまま入居可能	111	39.2%	1,332	42.4%
		軽度な不良状態	122	43.1%	1,561	49.8%
		重度な不良状態	49	17.3%	230	7.3%
		修復不可能	1	0.4%	15	0.5%
特定空家等の可能性有り		58	20.5%	451	14.4%	

出典：大分市『大分市空家等実態調査』（H27年10月～H28年3月）

■地区と大分市の住宅の建て方別一般世帯数の比較

		住宅の建て方別一般世帯数				
		総数※	一戸建	長屋建	共同住宅	その他
実数(世帯)	大分市	196,663	102,213	1,900	92,278	272
	大南地区	9,078	8,347	90	640	1
割合	大分市	100%	52%	1%	47%	0%
	大南地区	100%	92%	1%	7%	0%

※住宅の建て方「不詳」を含む

出典：総務省統計局『平成 27 年国勢調査』

※一般世帯：住居と生計を共にしている人の集まり、または単身者。ただし、寮や病院等施設等の入所者を除く。詳細は国勢調査において定義されている。

【住宅及び住環境の主な方針】

- 昭和 50 年代以前に建設された郊外型住宅団地の活性化
- 戸次本町における良好な景観及び住環境の維持
- 大分市域内過疎対策地域等における地域コミュニティの維持・活性化



(4) 植田地区

【現状】

○大分地区に次いで人口が多く、大型商業施設があり、高速道路、鉄道等が充実した生活利便性が高い地区です。

○昭和 50 年代以前に建設された郊外型住宅団地が多く、急激な少子高齢化への対応が課題となっています。

○富士見が丘団地をモデル団地として、郊外型住宅団地の活性化を目的に「ふるさと団地の元気創造推進事業」を実施してきました。今後は、その他の郊外型住宅団地における新たな取組が求められます。

○住宅に住む一般世帯を住宅の建て方別に見ると、「一戸建」が 6 割強、次いで「共同住宅」が 3 割強となっています。



■地区と大分市の人口の推移比較

		単位	植田地区			大分市		
			H23	H28	増減	H23	H28	増減
人口	合計※	人	83,908	82,791	-1.3%	476,203	479,408	+0.7%
	15歳未満	%	13%	13%	+0%	15%	14%	-1%
	15～64歳	%	63%	56%	-7%	65%	61%	-4%
	65歳以上	%	24%	31%	+7%	20%	25%	+5%
平均年齢		才	45.4	47.5	2.1	43.1	44.7	1.6
世帯数※		世帯	35,365	36,759	+3.9%	206,047	217,182	+5.4%
世帯当り人員		人/世帯	2.4	2.3	-0.1	2.3	2.2	-0.1

※人口合計と世帯数の増減では、増減率を示した。出典：大分市『住民基本台帳』（各年9月末）

■地区と大分市の空家等の状況比較

			植田地区		大分市	
			戸数(戸)	割合	戸数(戸)	割合
空家等	内訳	合計	295	100.0%	3,138	100.0%
		そのまま入居可能	173	58.6%	1,332	42.4%
		軽度な不良状態	117	39.7%	1,561	49.8%
		重度な不良状態	5	1.7%	230	7.3%
		修復不可能	0	0.0%	15	0.5%
特定空家等の可能性有り			23	7.8%	451	14.4%

出典：大分市『大分市空家等実態調査』（H27年10月～H28年3月）

■地区と大分市の住宅の建て方別一般世帯数の比較

		住宅の建て方別一般世帯数				
		総数※	一戸建	長屋建	共同住宅	その他
実数 (世帯)	大分市	196,663	102,213	1,900	92,278	272
	植田地区	34,839	22,698	321	11,792	28
割合	大分市	100%	52%	1%	47%	0%
	植田地区	100%	65%	1%	34%	0%

※住宅の建て方「不詳」を含む

出典：総務省統計局『平成 27 年国勢調査』

※一般世帯：住居と生計を共にしている人の集まり、または単身者。ただし、寮や病院等施設等の入所者を除く。詳細は国勢調査において定義されている。

【住宅及び住環境の主な方針】

○昭和 50 年代以前に建設された郊外型住宅団地の活性化

○住み替え支援による定住人口の確保



(5) 大在地区

【現状】

- 地区北部の JR 大在駅北側において、大規模かつ良好な住宅地域が形成されています。
- 地区南部は住宅団地や大学の立地による単身者用の共同住宅等、良好な住環境が整備されています。
- 臨海部や地区南部に産業の集積が見られます。
- 住宅に住む一般世帯を住宅の建て方別に見ると、「共同住宅」が6割弱、次いで「一戸建」が4割強となっています。



■地区と大分市の人口の推移比較

		単位	大在地区			大分市		
			H23	H28	増減	H23	H28	増減
人口	合計※	人	26,652	28,145	+5.6%	476,203	479,408	+0.7%
	15歳未満	%	19%	18%	-1%	15%	14%	-1%
	15～64歳	%	68%	66%	-2%	65%	61%	-4%
	65歳以上	%	14%	16%	+2%	20%	25%	+5%
平均年齢		才	37.1	38.8	1.7	43.1	44.7	1.6
世帯数※		世帯	11,861	12,866	+8.5%	206,047	217,182	+5.4%
世帯当り人員		人/世帯	2.2	2.2	-0.1	2.3	2.2	-0.1

※人口合計と世帯数の増減では、増減率を示した。出典：大分市『住民基本台帳』（各年9月末）

■地区と大分市の空家等の状況比較

		大在地区		大分市		
		戸数(戸)	割合	戸数(戸)	割合	
空家等	内訳	合計	77	100.0%	3,138	100.0%
		そのまま入居可能	21	27.3%	1,332	42.4%
		軽度な不良状態	52	67.5%	1,561	49.8%
		重度な不良状態	4	5.2%	230	7.3%
		修復不可能	0	0.0%	15	0.5%
特定空家等の可能性有り		8	10.4%	451	14.4%	

出典：大分市『大分市空家等実態調査』（H27年10月～H28年3月）

■地区と大分市の住宅の建て方別一般世帯数の比較

		住宅の建て方別一般世帯数				
		総数※	一戸建	長屋建	共同住宅	その他
実数(世帯)	大分市	196,663	102,213	1,900	92,278	272
	大在地区	12,776	5,649	85	7,023	19
割合	大分市	100%	52%	1%	47%	0%
	大在地区	100%	44%	1%	55%	0%

※住宅の建て方「不詳」を含む

出典：総務省統計局『平成27年国勢調査』

※一般世帯：住居と生計を共にしている人の集まり、または単身者。ただし、寮や病院等施設等の入所者を除く。詳細は国勢調査において定義されている。

【住宅及び住環境の主な方針】

- 既成市街地における良好な住環境の維持
- 産業拠点と連携した良好な住宅地域の維持



(6) 坂ノ市地区

【現状】

- 地区北部の JR 坂ノ市駅を中心に、良好な住宅地域が形成されています。
- 地区南部は山林が広がっており、その裾野に田園が広がっています。
- 狭隘道路、工場と周辺住宅の調和の課題を抱える地区もあります。
- 大分市域内過疎対策地域等における地域コミュニティの維持等が求められています。
- 住宅に住む一般世帯を住宅の建て方別に見ると、「一戸建」が7割、次いで「共同住宅」が3割弱となっています。



■地区と大分市の人口の推移比較

		単位	坂ノ市地区			大分市		
			H23	H28	増減	H23	H28	増減
人口	合計※	人	17,591	18,858	+7.2%	476,203	479,408	+0.7%
	15歳未満	%	16%	18%	+2%	15%	14%	-1%
	15～64歳	%	61%	58%	-3%	65%	61%	-4%
	65歳以上	%	23%	25%	+2%	20%	25%	+5%
平均年齢		才	43.4	43.0	-0.4	43.1	44.7	1.6
世帯数※		世帯	7,119	7,805	+9.6%	206,047	217,182	+5.4%
世帯当り人員		人/世帯	2.5	2.4	-0.1	2.3	2.2	-0.1

※人口合計と世帯数の増減では、増減率を示した。出典：大分市『住民基本台帳』(各年9月末)

■地区と大分市の空家等の状況比較

		坂ノ市地区		大分市		
		戸数(戸)	割合	戸数(戸)	割合	
空家等	合計	172	100.0%	3,138	100.0%	
	内訳	そのまま入居可能	65	37.8%	1,332	42.4%
		軽度な不良状態	83	48.3%	1,561	49.8%
		重度な不良状態	20	11.6%	230	7.3%
		修復不可能	4	2.3%	15	0.5%
特定空家等の可能性有り		38	22.1%	451	14.4%	

出典：大分市『大分市空家等実態調査』(H27年10月～H28年3月)

■地区と大分市の住宅の建て方別一般世帯数の比較

		住宅の建て方別一般世帯数				
		総数※	一戸建	長屋建	共同住宅	その他
実数(世帯)	大分市	196,663	102,213	1,900	92,278	272
	坂ノ市地区	6,873	4,825	74	1,971	3
割合	大分市	100%	52%	1%	47%	0%
	坂ノ市地区	100%	70%	1%	29%	0%

※住宅の建て方「不詳」を含む

出典：総務省統計局『平成27年国勢調査』

※一般世帯：住居と生計を共にしている人の集まり、または単身者。ただし、寮や病院等施設等の入所者を除く。詳細は国勢調査において定義されている。

【住宅及び住環境の主な方針】

- 既成市街地における良好な住環境の維持
- 住環境整備事業（細地区）による良好な住宅市街地の形成
- 大分市域内過疎対策地域等における地域コミュニティの維持・活性化



(7) 佐賀関地区

【現状】

- 全国ブランド「関あじ・関さば」に代表される豊かな海の幸と豊かな自然に恵まれています。
- 大分市域内過疎対策地域等における地域コミュニティの維持等が求められています。
- 空家等が世帯数比で最も多く、空家等の数も2番目に多い地区です。重度な不良状態の空家等の割合が1割を超えており、そのまま入居可能な空家等が2割強にとどまるなど、活用可能な空家等の割合も比較的少なめです。
- 高齢化率が高い地区であることから、高齢者を対象とした住宅施策が求められます。
- 住宅に住む一般世帯を住宅の建て方別に見ると、「一戸建」が9割、次いで「共同住宅」が1割弱となっています。



■地区と大分市の人口の推移比較

		単位	佐賀関地区			大分市		
			H23	H28	増減	H23	H28	増減
人口	合計※	人	10,704	9,240	-13.7%	476,203	479,408	+0.7%
	15歳未満	%	8%	6%	-2%	15%	14%	-1%
	15～64歳	%	51%	44%	-7%	65%	61%	-4%
	65歳以上	%	41%	51%	+10%	20%	25%	+5%
平均年齢		才	55.4	59.0	3.6	43.1	44.7	1.6
世帯数※		世帯	4,843	4,598	-5.1%	206,047	217,182	+5.4%
世帯当り人員		人/世帯	2.2	2.0	-0.2	2.3	2.2	-0.1

※人口合計と世帯数の増減では、増減率を示した。出典：大分市『住民基本台帳』（各年9月末）

■地区と大分市の空家等の状況比較

		佐賀関地区		大分市		
		戸数(戸)	割合	戸数(戸)	割合	
空家等	合計	506	100.0%	3,138	100.0%	
	内訳	そのまま入居可能	115	22.7%	1,332	42.4%
		軽度な不良状態	321	63.5%	1,561	49.8%
		重度な不良状態	67	13.2%	230	7.3%
		修復不可能	3	0.6%	15	0.5%
特定空家等の可能性有り		104	20.6%	451	14.4%	

出典：大分市『大分市空家等実態調査』（H27年10月～H28年3月）

■地区と大分市の住宅の建て方別一般世帯数の比較

		住宅の建て方別一般世帯数				
		総数※	一戸建	長屋建	共同住宅	その他
実数(世帯)	大分市	196,663	102,213	1,900	92,278	272
	佐賀関地区	3,819	3,437	75	304	3
割合	大分市	100%	52%	1%	47%	0%
	佐賀関地区	100%	90%	2%	8%	0%

※住宅の建て方「不詳」を含む

出典：総務省統計局『平成27年国勢調査』

※一般世帯：住居と生計を共にしている人の集まり、または単身者。ただし、寮や病院等施設等の入所者を除く。詳細は国勢調査において定義されている。

【住宅及び住環境の主な方針】

- 大分市域内過疎対策地域等における地域コミュニティの維持・活性化
- 空き家対策の推進
- 福祉関係機関と連携した住宅施策の充実



(8) 野津原地区

【現状】

- 地区の8割近くを森林が占め、棚田が見られるなど、豊かな自然環境と優れた農村景観が広がっています。
- 大分市域内過疎対策地域等における地域コミュニティの維持等が求められています。
- 空家等が世帯数比で佐賀関地区に次いで多い地区です。重度な不良状態の空家等の割合が4分の1弱を占めており、そのまま入居可能な空家等が1割を下回るなど、活用可能な空家等の割合が少ない状況です。
- 生活利便性の維持向上、公共公益施設の集積の維持、生活道路整備等、生活基盤の充実が求められます。
- 高齢化率が高い地区であることから、高齢者を対象とした住宅施策が求められます。
- 住宅に住む一般世帯を住宅の建て方別に見ると、「一戸建」が9割強、次いで「長屋建」が1割弱となっています。



■地区と大分市の人口の推移比較

		単位	野津原地区			大分市		
			H23	H28	増減	H23	H28	増減
人口	合計※	人	4,822	4,515	-6.4%	476,203	479,408	+0.7%
	15歳未満	%	9%	9%	+0%	15%	14%	-1%
	15～64歳	%	54%	49%	-5%	65%	61%	-4%
	65歳以上	%	37%	42%	+5%	20%	25%	+5%
平均年齢		才	53.0	54.7	1.7	43.1	44.7	1.6
世帯数※		世帯	2,029	2,095	+3.3%	206,047	217,182	+5.4%
世帯当り人員		人/世帯	2.4	2.2	-0.2	2.3	2.2	-0.1

※人口合計と世帯数の増減では、増減率を示した。出典：大分市『住民基本台帳』（各年9月末）

■地区と大分市の空家等の状況比較

		野津原地区		大分市		
		戸数(戸)	割合	戸数(戸)	割合	
空家等	内訳	合計	125	100.0%	3,138	100.0%
		そのまま入居可能	12	9.6%	1,332	42.4%
		軽度な不良状態	85	68.0%	1,561	49.8%
		重度な不良状態	28	22.4%	230	7.3%
	修復不可能	0	0.0%	15	0.5%	
特定空家等の可能性有り		28	22.4%	451	14.4%	

出典：大分市『大分市空家等実態調査』（H27年10月～H28年3月）

■地区と大分市の住宅の建て方別一般世帯数の比較

		住宅の建て方別一般世帯数				
		総数※	一戸建	長屋建	共同住宅	その他
実数(世帯)	大分市	196,663	102,213	1,900	92,278	272
	野津原地区	1,508	1,382	84	41	1
割合	大分市	100%	52%	1%	47%	0%
	野津原地区	100%	91%	6%	3%	0%

※住宅の建て方「不詳」を含む

出典：総務省統計局『平成27年国勢調査』

※一般世帯：同居と生計を共にしている人の集まり、または単身者。ただし、寮や病院等施設等の入所者を除く。詳細は国勢調査において定義されている。

【住宅及び住環境の主な方針】

- 大分市域内過疎対策地域等における地域コミュニティの維持・活性化
- 生活利便性の維持向上及び生活基盤の維持
- 優れた自然・農村景観を活かした住環境の向上
- 空き家対策の推進
- 福祉関係機関と連携した住宅施策の充実



(9) 明野地区

【現状】

- 地区の大部分が住宅地で占められています。
- 地区中心部では土地区画整理事業により、良質な住環境が形成されています。
- 住宅に住む一般世帯を住宅の建て方別に見ると、「共同住宅」が5割強、次いで「一戸建」が5割弱となっています。



■地区と大分市の人口の推移比較

		単位	明野地区			大分市		
			H23	H28	増減	H23	H28	増減
人口	合計※	人	25,951	24,862	-4.2%	476,203	479,408	+0.7%
	15歳未満	%	16%	13%	-3%	15%	14%	-1%
	15～64歳	%	67%	63%	-4%	65%	61%	-4%
	65歳以上	%	17%	24%	+7%	20%	25%	+5%
平均年齢		才	41.2	44.1	2.9	43.1	44.7	1.6
世帯数※		世帯	10,462	10,671	+2.0%	206,047	217,182	+5.4%
世帯当り人員		人/世帯	2.5	2.3	-0.2	2.3	2.2	-0.1

※人口合計と世帯数の増減では、増減率を示した。出典：大分市『住民基本台帳』（各年9月末）

■地区と大分市の空家等の状況比較

		明野地区		大分市		
		戸数(戸)	割合	戸数(戸)	割合	
空家等	内訳	合計	74	100.0%	3,138	100.0%
		そのまま入居可能	27	36.5%	1,332	42.4%
		軽度な不良状態	41	55.4%	1,561	49.8%
		重度な不良状態	6	8.1%	230	7.3%
		修復不可能	0	0.0%	15	0.5%
特定空家等の可能性有り		4	5.4%	451	14.4%	

出典：大分市『大分市空家等実態調査』（H27年10月～H28年3月）

■地区と大分市の住宅の建て方別一般世帯数の比較

		住宅の建て方別一般世帯数				
		総数※	一戸建	長屋建	共同住宅	その他
実数(世帯)	大分市	196,663	102,213	1,900	92,278	272
	明野地区	8,050	3,880	5	4,162	3
割合	大分市	100%	52%	1%	47%	0%
	明野地区	100%	48%	0%	52%	0%

※住宅の建て方「不詳」を含む

出典：総務省統計局『平成27年国勢調査』

※一般世帯：住居と生計を共にしている人の集まり、または単身者。ただし、寮や病院等施設等の入所者を除く。詳細は国勢調査において定義されている。

【住宅及び住環境の主な方針】

- 住民等が主体となったエリアマネジメントの推進
- 社宅から定住型住宅への適正な土地利用の転換を促進